

「クヌギ林とため池がつなぐ農林水産循環」の意義と活用

林 浩昭（国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会 会長）

大分県の北東部に位置する国東半島宇佐地域(豊後高田市、杵築市、宇佐市、国東市、姫島村、日出町)は、2013年国際連合食糧農業機関(FAO)より、世界農業遺産に認定された。タイトルは、「クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環」であり、①瀬戸内式気候で降水量の少ない地域で水田農業を可能にした連携式ため池、②火山灰土壌に豊かな保水層を形成するクヌギ広葉樹林の持続的利用と原木しいたけ生産、③林業－農業－水産業が関連した一次産業とそれらに関連した社会組織の維持や地域の生物多様性、などの特徴的農林水産業システムの成立が評価された。

20年ほど前、演者が故郷にUターンした後に感じてきた地域の姿は、①学校や病院の統廃合、公共交通システムの廃止、②耕作放棄地増加や労働力不足で山間地での農林業の生産停滞、③ため池や堰・水路の管理危機、④里山景観の喪失や社会組織の衰退、⑤森林管理不足による災害発生の増加や海岸域の生産性減退、など多くの課題で満ちたものであった。このような社会課題を解決に導く可能性のある世界農業遺産には、次のような5つの認定基準、①食料及び生計、②農業生物多様性、③地域の伝統的な知識システム、④文化、価値観及び社会組織、⑤ランドスケープ及びシースケープの特徴、があり、申請書の作成や認定後のアクションプランの実施過程は、まさに少子高齢化最前線である国東半島宇佐地域の地域活性化そして次世代教育に取り組む過程であった^{(1),(2),(3)}。本講演では、この地域に特徴的である連携式ため池の歴史的意義の再確認と現代に生かす取り組みを紹介してみたい。

国東半島宇佐地域のため池は、小さな河川の源流域に人力で堤を設営、その水をせき止めることで造築されてきた。厳しい水飢饉に見舞われるたびに、より上流域や別の谷にため池を作り足しそれらを集水路や水路トンネルで連携させ⁽⁴⁾、さらに厳しい水飢饉に備えた。これらため池の造築・改修の歴史は、地元池守などの元に保管されている古文書などに見ることができる。国東市武蔵町の高池溜池に関する文書には、堤修復に近隣集落からの応援が何人あったのかが日付とともに詳細に記されていた。これらため池の維持管理は近代までこの地域の広域社会組織によって担われていたことが推定できる(林 未発表)。『くにさき史談』第8集には、昭和初期、国東町(現在国東市国東町)での人力による築堤作業(床堀作業、土とり作業、運搬や波受石張作業、そして音頭に合わせた土手搗き作業)が写真とも調査報告されている⁽⁵⁾。このような人力での作業は、今は重機での作業に置き換わってしまっているが、過去の作業風景は、地域住民の記憶の中にはもう残っていないのであろうか。世界農業遺産認定後、地元紙大分合同新聞の「読者の声」には、当時80歳の西氏が、人力での築堤作業を手伝った経験が掲載された⁽⁶⁾。また、国東市国見町では、地元で伝わる土手搗き唄を継承し、中学生に教える取り組みが今も続いている。これらの事例は、ため

池の重要性を将来に語り継ぐうえで重要な役割を果たす人材や地域資源がまだ残っていることを意味している。このような地域資源に関しては、国東半島で農家の生計保証に重要な役割を果たしてきた繊維作物である畳表原草シチトウイ(カヤツリグサ科)⁽⁷⁾の生産と連携式ため池での水の融通の歴史⁽⁸⁾、クヌギ原木を利用したいだけ栽培とため池の関係やため池と両生類(絶滅危惧種など)との関連⁽⁹⁾などともに、世界農業遺産認定後のため池保全活動で、さらなる調査継続が必要であると感じている。

周防灘に面した宇佐市も干ばつ常襲地帯であり、かつて多くのため池が構築利用されてきた。今では、水源の日出生ダムと日指ダムを山中導水路(29.5 km)で連携させ、さらに香下ダム、河川と頭首工、そして用水路を加えた近代的な農業水利設備が整えられ、下流宇佐平野での水田農業や同市安心院での山間地域果樹栽培など県内最大の農業地帯に農業用水を供給している⁽³⁾。まさに、現代版連携式ため池ともいえる施設であり、国東半島宇佐地域の伝統的な連携式ため池とその現代版を同時に比較見学することで、日本の水利の歴史を深く学ぶことができるし、また、海外からの研究者や旅行者へ興味深い見学地を提供することもできる。

世界農業遺産の認定以来、遺産保全のためのアクションプランを着実に実施し、農林水産省専門家会議のモニタリングと評価を定期的に受けてきた。演者が感じてきた最も顕著な世界農業遺産認定効果は、観光客が増えることでもまた農産物の価格が上がることもなく、認定地域内で一次産業や地域活性化を担ってきた人々の意識を奮い立たせたこと、そして、子供たちへの次世代教育や地域学習に、ため池をはじめとする一次産業の価値が使われるようになったこと、にある⁽³⁾。少子高齢化の最前線で持続可能でカーボンニュートラルな社会を実現する上での問題点を地域全体で考え議論し、巣立っていく次世代が、学んだ地域課題の解決策を将来自ら見出していけるような一歩踏み込んだ取り組みが今必要であると感じている。

- (1) Hiroaki HAYASHI (2018) Designation Process of GIAHS in Kunisaki Peninsula Usa Area: Rediscovery of Interlinked Multiple Irrigation Ponds and UNU (国東半島宇佐地域 世界農業遺産認定課程 ～複数連携式ため池群の再発見と国連大学～、The Road to Globally Important Agricultural Heritage Systems(GIAHS) (世界農業遺産への道のり～国連大学と地域の歩み～)、Corresponding authors and Editors: Ivonne Yui and Akira Nagata, Published by UNU-IAS OUIK :74-77
- (2) 林 浩昭 (2019)「クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環」の保全活動で地域振興を、農業 1658:38-45
- (3) 林 浩昭 (2020)「世界農業遺産認定と地域振興の取り組み クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環」、ARDEC 62:21-25
- (4) 友正達美・辛島光彦 (2015) 国東半島宇佐地域の連携ため池に見られる「水土の知」と次世代への継承の取り組み、水土の知 83:903-905
- (5) くにさき史談会 (2007) くにさき史談第8集 特集 国東町の溜池調査
- (6) 西 豊之輔 (2013) ため池普請の思い出、大分合同新聞 10月16日 読者の声
- (7) 林 浩昭 (2014)世界農業遺産「クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環」での重要特用作物シチトウイ(七島藨:*Cyperus malaccensis* Lam.)の栄枯盛衰と試験研究、肥料科学 36:1-25
- (8) 林 浩昭 (2014)世界農業遺産「クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環」の価値と未来、都市と農村をむすぶ 75:34-43
- (9) Hiroaki HAYASHI (2014) Understandings of relationships between agriculture and biodiversity in Kunisaki GIAHS, *J. Resour. Ecol.* 5:395-397